

政策評価に関する統一研修（地方研修）福岡会場講演概要

平成 29 年 1 月 27 日開催

講義名：統計データを用いた政策分析（演習） ～政策効果の把握に必要な統計データの適正かつ有効な利用について～

講師：日本大学経済学部教授

経済産業研究所コンサルティングフェロー 小滝 一彦

講義時間：13 時 00 分～15 時 00 分（演習）

I. 政策の事前・事後の評価の必要性

役所は予算獲得が重要と考えて、予算を、取った後は特に評価はせず、評価機能が軽視されがちな時代があった今日はそのようなことでは困るということで、事前と事後の行政評価がとても重要になってきている。

◎ 政策評価が不十分だと、、、

不十分だと有害な政策や不必要な政策が間違っ採択される。あるいは本来必要な政策なのに採択されない問題が出てくる。

II 政策の目的は？評価の視点

◎ 政策の目的は？

政策の目的は国民を幸せにすることと考える。市役所であれば市民を幸せにすること。そのために何をするか、それが政策評価というアウトカム。国民の生活を幸せにするために何をしていくかということが最終的な目的になる。それは必ずしも GDP とは一致せず、GDP が減って幸せになる場合もある。市場がうまく機能しないとき、政府はそれを補っていかなければいけない。

◎ 評価の重要性

政府の活動は市場をうまく機能させ補完するための活動、その政府が民主主義によって運営されている以上自らの政策の必要性や効果の評価し、データをオープンにして他人も評価できるようにすることが大事。

◎ 評価の視点

評価を考えるときには、ロジック・モデルが必要となる。そうしないとこじつけ議論による利益誘導がまかり通ってしまう。何のために政策をしているのかという視点がないとその場しのぎの議論に負けてしまう。そうしたところをきっちりと整理しておく必要がある。

III 統計データ、行政業務データを用いた数量的な評価

◎ データによる必要性と効果の評価

データを使って政策を評価しなくてはいけない。まずはデータを計測することが必要であり、業務統計データ、仕事の関係で集めたデータは大事に保存しておくことが必要。

◎ 一般統計を用いたアウトカム測定

アウトカムに向けた資料が多い。国勢調査や企業センサス等政府のものは生のデータがあり、こうしたデータはアウトプットよりもアウトカムに適しているデータがたくさんあるので有用である。

◎ アウトカム測定に有効な統計

国民センサス、企業センサス、家計調査、全国消費実態調査、賃金構造基本統計調査、法人企業統計、不動産の公示地価、住宅・土地統計調査とか、多くの統計調査は自分たちが集めてきたデータでそれを分析することができる。

IV 統計データの分析で注意すべきこと

- ◎ 分析する対象をそろえる
例えば、景気を調べるときに異なる業種を調査すれば、当然結果も異なる。分析する対象を揃えることが必要である。
- ◎ 経済メカニズムを無視しない。
景気が良くなれば格差が大きくなるのは当然。データだけを見て貧困家庭が増え、格差が広がったと考えるのはよくない。経済メカニズムを無視してはならない。
- ◎ ダブルカウント等
堤防の向こうの地価が 250 億円上がったのは、30 年に 1 回の水害を受けなくなった結果地価が上がっており、同じことを表と裏から見ているだけで、両方カウントするとダブルカウントになってしまう。
- ◎ 追い風
若年者就労支援策を平成 23 年に導入し、その後、若年者雇用は劇的に改善したとしているが、2003 年から 2008 年まではどこの市区町村でも若年者雇用は急改善している。これは、円安と海外景気により、雇用そのものが改善しているためであり、追い風を自分だけの手柄にしてはいけない。
- ◎ 見かけ上
「新しい融資制度を活用した中小企業では、活用前に比べて雇用が 3 割増えた。今後全てこの方法に切り替えると、雇用は 20 万人増加すると見込まれる。」
⇒新しい融資制度を利用した企業は元から優良企業で、何もしなくても雇用を 3 割増やしていた可能性が高い。落選した企業のデータも残しておいてほしい。両者を 1 年後に比べて新制度を適用した企業は本当に伸びたのか。落選した企業は伸びなかったのかを調べる必要がある。データを取っておけばそれがわかる。
- ◎ 正確な政策評価のための統計分析手法（サンプルセレクションバイアス補正）
統計分析をする際に、サンプルの選び方を間違えていることがある。データさえあればちゃんと処理できる。ランダムサンプリングでどんな問いをどのように出せばいいかが重要で、統計経験者に分析方法について聞くこともできる。
- ◎ おわりに
公的部門における政策評価、事前・事後の評価は、ロジック・モデルに基づく理性あるデータ分析。政策評価は市場には限界があり、補正する政府にも限界がある。政策評価の内容、データ、プロセスの公開は、人間を幸せにできるための「極めて重要な」行動となる。